

中学歴史プリント（過去問類似）

江戸時代

名前

得点

/8

問1 17世紀末から18世紀初めにかけて、京都や大阪などの上方を中心に、経済力を蓄えた町人の生活や感情を反映して栄えた文化を何といいますか。（2016年 和歌山公立入試 類似）

1. 元禄文化 2. 化政文化 3. 桃山文化 4. 東山文化

問2 江戸時代の農民支配に関する記述として、大規模なききんの影響と幕府の対応の組み合わせが正しいものはどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

1. ききんによる生活苦から百姓一揆が増加したため、幕府は農民の都市への流出を防ぐために都市への出かせぎ制限を行った。
2. ききんによる食料不足を解消するため、幕府は開港を行い、外国から安価な穀物を輸入することを奨励した。
3. ききんによる農村の荒廃を防ぐため、幕府は日本人の出入国を全面的に禁止し、鎖国体制をさらに強化した。
4. ききんの影響で物価が上昇したため、幕府は農民に対して商人の独占組織である株仲間へ加入することを推奨した。

問3 フランス革命前の社会では、特権階級が平民に重い負担を強いる不平等な構造がありましたが、革命によって社会はどのように変化しましたか。最も適切な説明を選んでください。（2019年 鳥取公立入試 類似）

1. 身分制度が打破され、すべての人が自由で平等な権利を持つことが目指された。
2. 王の権力がさらに強まり、軍事力を中心とした独裁政治が強化された。
3. 特定の身分の人だけが政治を行う、君主専制の仕組みが完成した。
4. 一部の特権階級の利益を守るため、市民の自由が厳しく制限されるようになった。

問4 江戸幕府が、多くのヨーロッパ諸国との交流を禁じる鎖国体制を築く中で、オランダに対してのみ長崎の出島での貿易を継続させた歴史的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 三重公立入試 類似）

1. オランダはキリスト教の布教を行わず、貿易のみを目的としていたから。
2. オランダが日本への軍事援助を約束し、幕府の軍事力を支えていたから。
3. オランダ人が日本の生活習慣を完全に受け入れ、出島以外での居住も許可されていたから。
4. オランダが世界最大の銀の産出国であり、日本の通貨制度を維持するために不可欠だったから。

問5 18世紀後半、老中の地位に就き、それまでの農業に依存した財政から、商業の力を利用した財政への転換を図った人物は誰ですか。（2019年 大阪公立入試 類似）

1. 田沼意次 2. 松平定信 3. 水野忠邦 4. 徳川吉宗

問6 江戸幕府の役職の階層構造を示した資料において、最高職である大老や、幕政を統轄する老中、旗本・御家人を監督する若年寄などと並び、実務機関として位置づけられている三奉行の説明として最も適切なものはどれですか。（2018年 香川公立入試 類似）

1. 寺社奉行は宗教勢力の管理、町奉行は江戸の行政と裁判、勘定奉行は幕府財政をそれぞれ専門に担当し、老中の指揮下で実務にあたった。
2. 寺社奉行は朝廷の監視、町奉行は全国の城下町の警備、勘定奉行は外国との貿易業務をすべて一括して担当した。
3. 三奉行は將軍直属の職として、老中の介入を受けることなく、独自の権限で全国の大名の監視と処罰を決定した。
4. 三奉行は鎌倉時代の執権の制度を引き継いだものであり、主に幕府の軍事面における最高責任者としての役割を担った。

問7 江戸時代後期に実施された、全国の海岸線を測量して精密な地図を作成する事業において、その測量手法や目的について説明した文として最も適切なものはどれですか。（2023年 香川公立入試 類似）

1. 天体観測による緯度の測定と、歩幅を一定に保って距離を測る歩測などを組み合わせ、精密な日本地図を完成させた。
2. 諸藩から提出された古い絵図を幕府が統合・整理することで、短期間で全国的な地図を編纂した。
3. オランダ語の地理書を翻訳し、世界地図の中に日本を位置づけることで、蘭学の普及に努めた。
4. 各地の古くからの伝承や名所を調査し、それらをまとめた地図付きの地誌を編纂することで、国学の発展に寄与した。

問8 江戸時代の社会において、幕府や諸藩は森林の保護に努める一方で、特産品として和紙の原料となる「楮（こうぞ）」などの栽培を奨励しました。こうした産業の発展によって書籍が普及しやすくなった背景のもと、人々の思想や文化活動も活発になりました。この時代に生まれた著作と作者の組み合わせとして、ふさわしいものを選びなさい。（2024年 長野県公立入試 類似）

1. 日本最古の歴史書を研究した『古事記伝』を著した本居宣長と、俳諧の紀行文『おくのほそ道』を著した松尾芭蕉
2. 勧善懲悪をテーマにした読本『南総里見八犬伝』を著した曲亭馬琴と、庶民の旅を滑稽に描いた『東海道中膝栗毛』を著した十返舎一九
3. 浮世草子と呼ばれる小説『日本永代蔵』を著した井原西鶴と、人形浄瑠璃の脚本『曾根崎心中』を著した近松門左衛門
4. 西洋の解剖書を翻訳した『解体新書』を著した杉田玄白と、組織的な農業技術をまとめた『農業全書』を著した宮崎安貞